

## 市内中小企業景況調査結果（令和2年7月～令和2年9月）

引き続きコロナウィルスの影響深刻化、来期に向け好転を期待

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第2四半期（令和2年7月～9月）の調査結果を報告します。

### ● 調査時点

令和2年8月15日

### ● 調査対象時期

令和2年7月～9月期状況、令和2年10～12月期見通し

### ● 調査回答企業数

36社：建設業4社、製造業7社、卸売業7社、小売業8社、サービス業10社（回収率72%）

### ● D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

### 【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期（令和2年4月～6月期：以下同じ）では、「コロナウィルス」の影響が現出してきており、全般的に悪化傾向を強めていたが、今期（令和2年7月～9月期：以下同じ）においてもその傾向は続いているものの、来期では、底打ち感が出てきており、歯止めがかかるのではないかとみている。

### ● 今期の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期と比較して9.3ポイント低下し、D Iでは△75.0となり、小幅ながらマイナス幅が拡大している。

業種別にみると、小売業では10.7ポイント好転しているものの、D Iでは△75.0と大幅なマイナス域での推移となっている。サービス業でも同様に6.7ポイントと好転しているものの、D Iでは△60.0とマイナス域で推移している。建設業では、14.2ポイントの低下となり、D Iでは△57.1とマイナス域が拡大している。卸売業では28.6ポイントの低下となり、D Iでは△100.0まで悪化している。製造業も40.0ポイントと大幅に低下し、D Iでも△100.0となっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると前期と比較して14・9ポイント低下しており、D Iでは $\Delta 80\cdot 6$ とマイナス幅が拡大している。業種別にみると、サービス業では2・2ポイントの低下にとどまっているが、D Iでは $\Delta 80\cdot 0$ まで悪化している。小売業でも、3・6ポイントの低下にとどまったものの、D Iでは $\Delta 75\cdot 0$ となっている。建設業では14・3ポイント低下し、D Iでは $\Delta 85\cdot 7$ と悪化している。製造業でも15・0ポイント低下し、D Iでは $\Delta 75\cdot 0$ まで悪化。卸売業では42・8ポイントと大幅な低下となりD Iでは $\Delta 85\cdot 7$ となっている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期と比較して12・1ポイントの低下となり、D Iでは $\Delta 75\cdot 0$ とかなりの悪化となっている。業種別にみると、小売業では35・7ポイントと大幅に上昇したものの、D Iでは $\Delta 50\cdot 0$ と悪化のまま推移している。サービス業でも6・7ポイントと小幅ながら好転しているものの、D Iでは $\Delta 60\cdot 0$ となっている。建設業では28・6ポイント低下し、D Iでは $\Delta 85\cdot 7$ と悪化している。卸売業では42・9ポイントと大幅に低下し、D Iでは $\Delta 100\cdot 0$ まで悪化している。製造業でも60・0ポイントも低下し、D Iでは $\Delta 100\cdot 0$ となっている。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期と比較して、11・4ポイント上昇し、D Iでは $\Delta 34\cdot 3$ まで戻している。業種別にみると、サービス業では36・7ポイントと大幅に上昇し、D Iでは $\Delta 30\cdot 0$ まで戻している。小売業では21・4ポイントの上昇となり、D Iでは $\Delta 50\cdot 0$ となっている。卸売業でも14・3ポイント上昇しており、D Iでは $\Delta 28\cdot 6$ となっている。建設業では変化なく、D Iでは $\Delta 28\cdot 6$ にとどまっている。製造業では33・3ポイントと大幅に低下し、D Iでも $\Delta 33\cdot 3$ と悪化している。

## ●来期(令和2年10~12月期)の見通し(前年同期比)

全産業合計の業況D Iは今期と比較して2・8ポイントと小幅ながら上昇するものの、D Iでは $\Delta 72\cdot 2$ と悪化超のまま推移するものとみている。業種別にみると、製造業では25・0ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 75\cdot 0$ と悪化のまま横ばいで推移するものとみている。サービス業は10・0ポイント上昇し、D Iでは $\Delta 50\cdot 0$ と悪化のまま推移するものとみている。小売業では変化なく、D Iでも $\Delta 75\cdot 0$ と悪化超のまま横ばいで推移するものとみている。建設業では14・3ポイント低下し、D Iでは $\Delta 71\cdot 4$ まで悪化する見通し。卸売業は変化ないものの、D Iでは $\Delta 100\cdot 0$ とすべての企業が悪化するものとみている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、13・9ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 66\cdot 7$ と悪化超のまま推移するものとみている。業種別にみると、サービス業では30・0ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 50\cdot 0$ にとどまるものとみている。建設業では28・6ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 57\cdot 1$ にとどまる見込み。卸売業でも14・3ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 71\cdot 4$ にとどまる見込み。製造業では変化なく、D Iでは $\Delta 75\cdot 0$ で横ばい。小売業では12・5ポイント低下し、D Iでは $\Delta 85\cdot 7$ となるものとみている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して16・7ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 58 \cdot 3$ となり悪化のまま推移するものとみている。業種別にみると、サービス業では30・0ポイント上昇し、D Iでも $\Delta 30 \cdot 0$ まで戻す見込み。製造業では25・0ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 75 \cdot 0$ にとどまるものとみている。建設業・卸売業ともに14・3ポイント好転するものの、D Iでは夫々 $\Delta 71 \cdot 4$ 、 $\Delta 85 \cdot 7$ と悪化超のまま推移するものとみている。小売業では変化なく、D Iでは $\Delta 50 \cdot 0$ で悪化のまま推移するものとみている。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して変化なく、D Iでは $\Delta 34 \cdot 3$ で横ばいの見込み。業種別にみると、小売業では12・5ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 37 \cdot 5$ にとどまる見通し。サービス業では変化なく、D Iでは $\Delta 30 \cdot 0$ と悪化のまま推移するものとみている。卸売業・製造業でも変化なく、D Iでは夫々 $\Delta 28 \cdot 6$ 、 $\Delta 33 \cdot 3$ で横ばいが続くものとみている。建設業では14・3ポイント低下し、D Iでは $\Delta 42 \cdot 9$ まで悪化するものとみている。

## ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期は33・3%の実績となり、前期（31・4%）に引き続き活発化している。前年同期（元年7月～9月期：30・6%）と比較しても同様に活発化したものとなっている。業種別で見ると、小売業やサービス業で活発化している。来期については全体で19・4%と今期と比較するとやや沈静化するものとみている。

## ●経営上の問題点

建設業では前期と変化なく、「民間需要の停滞」が1位、「従業員の確保難」が2位、「その他（コロナウイルスの影響）」が3位となっている。製造業では、前回2位の「原材料価格の上昇」が1位となり、2位は「需要の停滞」と「製品（加工）単価の低下・上昇難」となっている。3位には「製品ニーズの変化への対応」と「人件費の増加」が新たに入っている。卸売業では、前期1位「需要の停滞」と2位「その他（新型コロナウイルスの影響）」に変化ないものの、「人件費以外の経費の増加」も2位となっている。3位は前期と変化なく「大企業の進出による競争の激化」となっている。小売業では、前回2位の「需要の停滞」が1位となっており、前回1位の「その他（新型コロナウイルスの影響）」は2位となっている。3位は前期と変化なく「購買力の他地域への流出」となっている。サービス業では引き続き「需要の停滞」が1位となり、2位も前期と変化なく「その他（新型コロナウイルスの影響）」が入っている。3位には新たに「利用者ニーズの変化への対応」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が入っている。